

ISO9001活用工事支援システム

(請負者の品質マネジメントシステム運用状況把握のためのシステム)

操作マニュアル

2005年2月15日版

Ver.1.01 マニュアル

Ver.1.01 システム

－目次－

1. システムの概要

1.1 システムの目的	4-2
1.2 システムの機能	4-2
1.3 システムの動作環境	4-3
1.4 システムのファイル構成	4-3

2. システムの操作

2.1 システムのインストール	4-4
2.2 システムのアンインストール	4-7
2.3 システムの起動と終了	4-8
2.4 システムを利用した業務の流れ	4-10
2.5 処理フロー	4-11
2.6 計画の把握に関する把握票の作成	4-12
2.7 運用状況の把握に関する把握票の作成	4-21
2.8 段階確認代替時の把握票の作成	4-30
2.9 設計変更時の把握票の作成	4-31
2.10 その他の機能	4-34

<u>把握票記入例</u>	4-37
---------------	------

<u>3. サポート連絡先</u>	4-47
-------------------	------

1. システムの概要

1.1 システムの目的

本システムは、請負者の ISO9001 品質マネジメントシステムを活用して、監督員の業務を効率的に実施するため、工事情報の管理と付随する各種把握票を管理出力するシステムです。把握票の出力は新土木工事積算体系に基づいて作成された設計書の項目(工事項目:大区分、工事区分、工種、種別、細別)を選択することで簡単に作成できます。

1.2 システムの機能

分類	機能概要
把握票の仕様	出来形、品質、写真、 段階確認 の各把握票を出力
把握票生成	工種、種別、細別を順次選択することで、把握項目を絞り込み把握票を生成する
把握票の編集機能	<ul style="list-style-type: none">・把握票のフォーマット変更および編集機能<ul style="list-style-type: none">押印欄の編集不要な管理項目や測定項目の削除把握結果の書き込み・把握票出力時のデータ自動反映機能(工事名称、工事項目名)
データ管理機能	<ul style="list-style-type: none">・工事情報管理機能(年度、工事名称、計画書版)・工事情報のコピー機能・編集した把握票の保存機能

1.3 システムの動作環境

	最低	推奨
対応 OS	Windows98,Me,2000,XP	
CPU	Pentium3 600MHz 以上	Pentium4 1.5GHz 以上
メモリ	128MB 以上	512MB 以上
ハードディスク空き容量	本システム用に 300MB(作成データにより増加)	
画面解像度	1024×768	1280×1024
プリンタ	A4 横の印刷が可能で左右の余白を 3cm 以下	
必要なアプリケーション	Microsoft EXCEL2000,2002,2003	

1.4 システムのファイル構成

本システムのファイル構成は次の通りです。

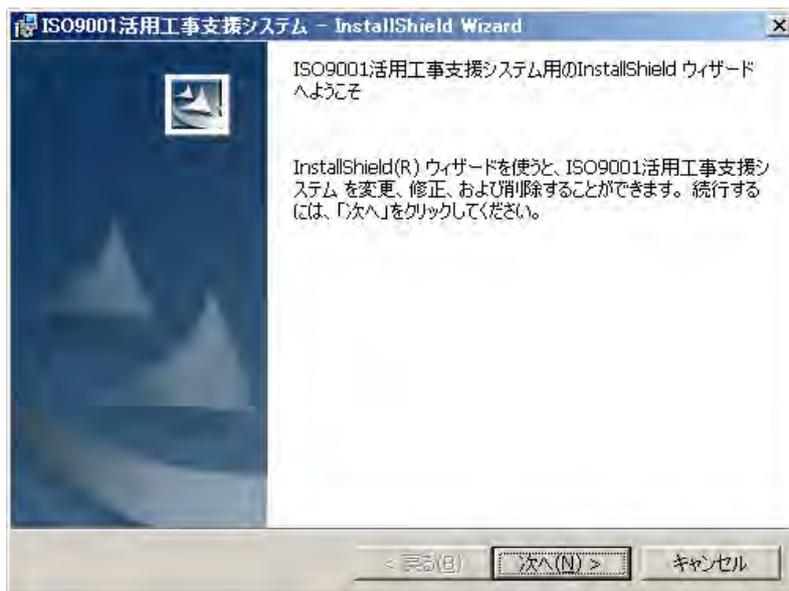
(インストール先) ¥ISO9001 活用工事支援システム.xls(プログラムファイル)	
¥マスタ¥	(マスタ用 EXCEL ファイル)
¥写真確認¥	(写真確認用 EXCEL ファイル)
¥写真把握¥	(写真把握用 EXCEL ファイル)
¥出来形確認¥	(出来形確認用 EXCEL ファイル)
¥出来形把握¥	(出来形把握用 EXCEL ファイル)
¥段階確認¥	(段階確認用 EXCEL ファイル)
¥品質確認¥	(品質確認用 EXCEL ファイル)
¥品質把握¥	(品質把握用 EXCEL ファイル)

※作成したデータのデフォルトの保存先はインストール先フォルダの直下となっております。

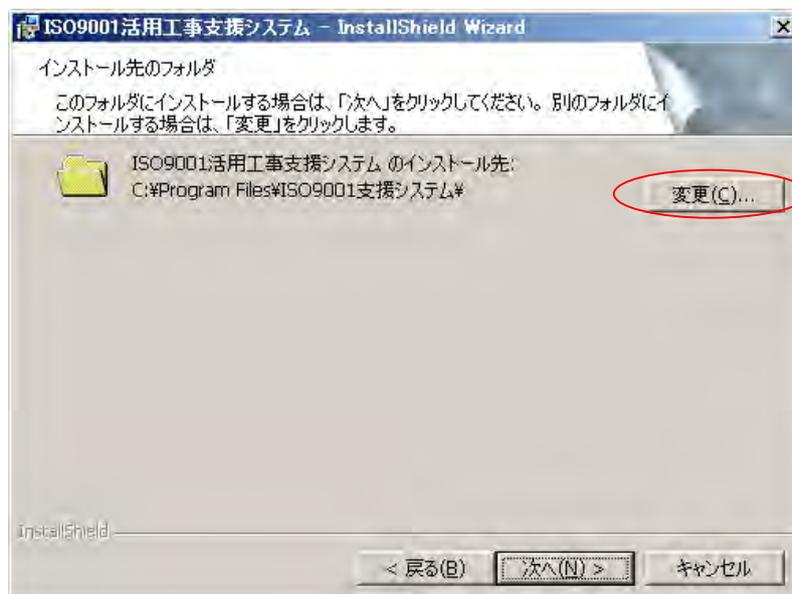
2. システムの操作

2.1 システムのインストール

インストールCDを入れると、自動的にインストーラが起動されます。起動されない場合は、CD内の「setup.exe」をダブルクリックして起動してください。



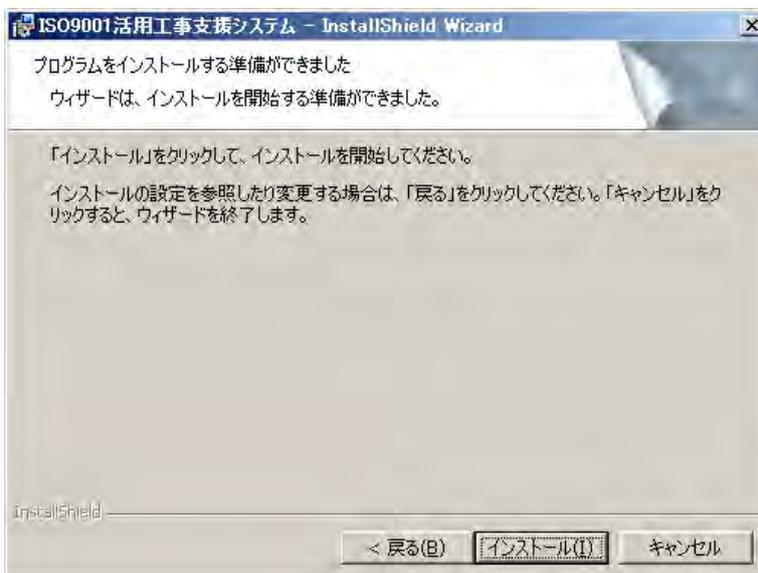
インストールを開始する場合は、[次へ]ボタンを押します。



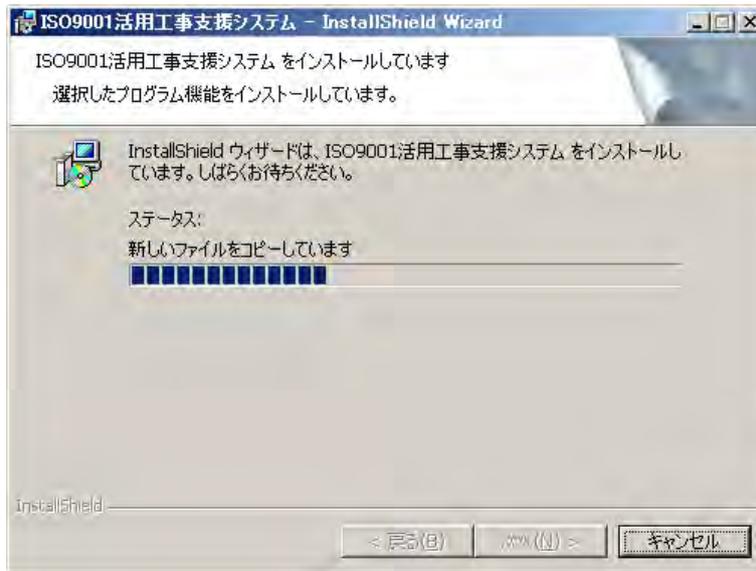
「インストール先のフォルダ」の指定画面が表示されます。

デフォルトのインストール先は “C:\Program Files\ISO9001 支援システム” となります。

インストール先を変更する場合は[変更]ボタンを押し、インストール先を選択します。

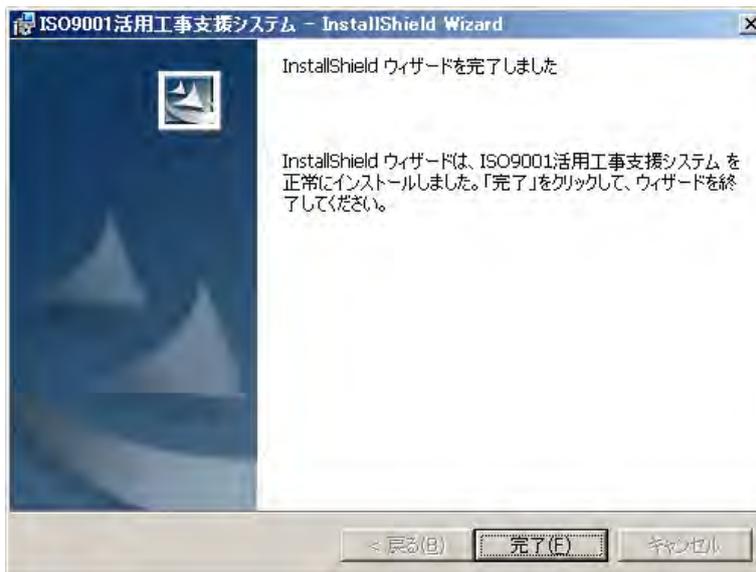


[インストール]ボタンを押してインストールを開始してください。インストール先を変更する場合は[戻る]ボタンを押してください。[キャンセル]ボタンを押しますと、インストールを中止します。



システムファイルをコピーします。

下の画面が表示されると、インストールは終了です。



[完了]ボタンを押してインストールを終了してください。

Windows のスタートメニューに「ISO9001 活用工事支援システム」が登録されていることを確認してください。



2.2 システムのアンインストール

システムのアンインストールは Windows のスタートメニューから

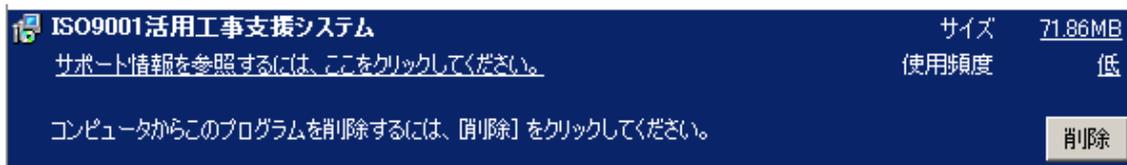


を選択し、実施します。

※ コントロールパネルからも実施可能です。



(Windows98,Me,2000 では”アプリケーションの追加と削除”)から実施します。

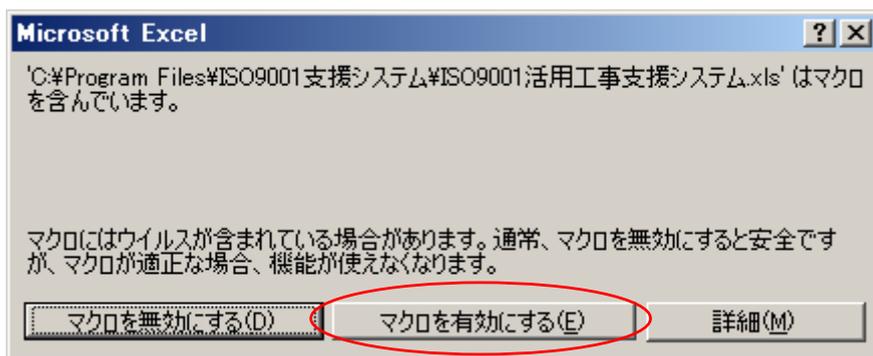


[削除]ボタンを押すとアンインストールが実施されます。

2.3 システムの起動と終了

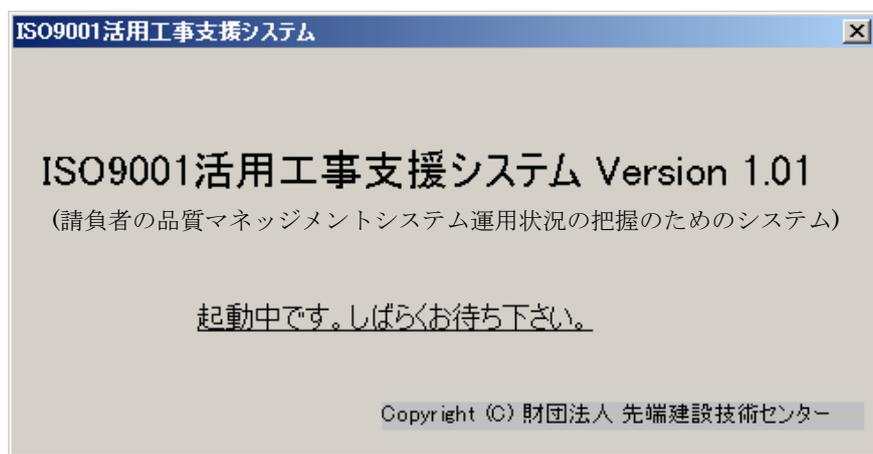
(1) システムの起動

Windows のスタートメニューより、「プログラム－ISO9001 活用工事支援システム」をクリックすると、システムが起動されます。本システムはEXCELのマクロで作成されていますので、通常は下のマクロ確認画面が表示されます。



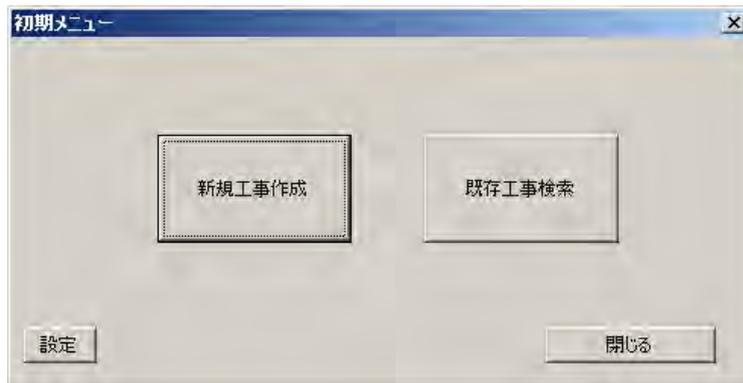
[マクロを有効にする]ボタンを押します。

※システムを起動する前に他のEXCELシートを開いている場合は閉じることをお勧めします。本システムを終了するまでは他のEXCELシートはご利用できませんので、御注意ください。



タイトル画面が表示されます。本システムでは起動時にマスタデータを読み込むため少し時間がかかりますが、しばらくして初期メニューが表示されます。

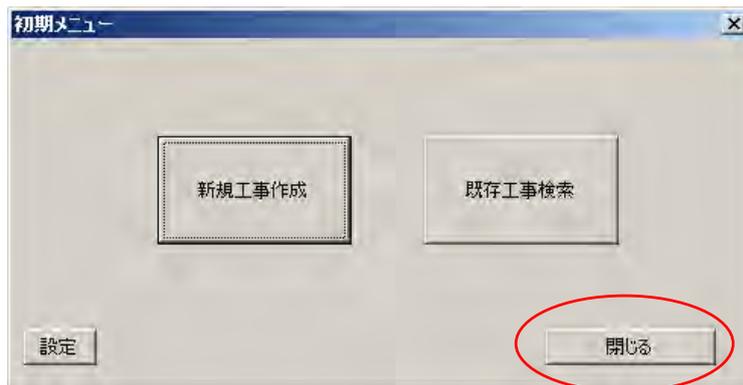
※起動中はマスタデータ用EXCELファイルを読み込むため、自動的にEXCELシートが最小化されて開いたり閉じたりしますが、問題はありません。



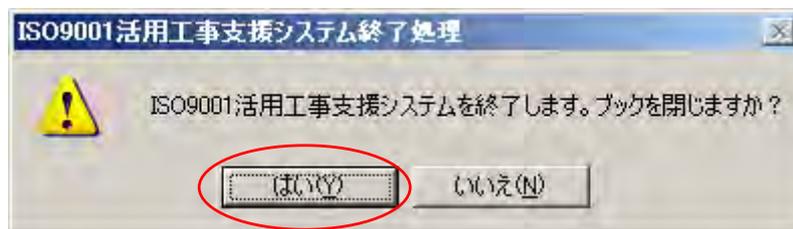
初期メニューから[新規工事作成]又は[既存工事検索]を選択し作業を開始します。

(2)システムの終了

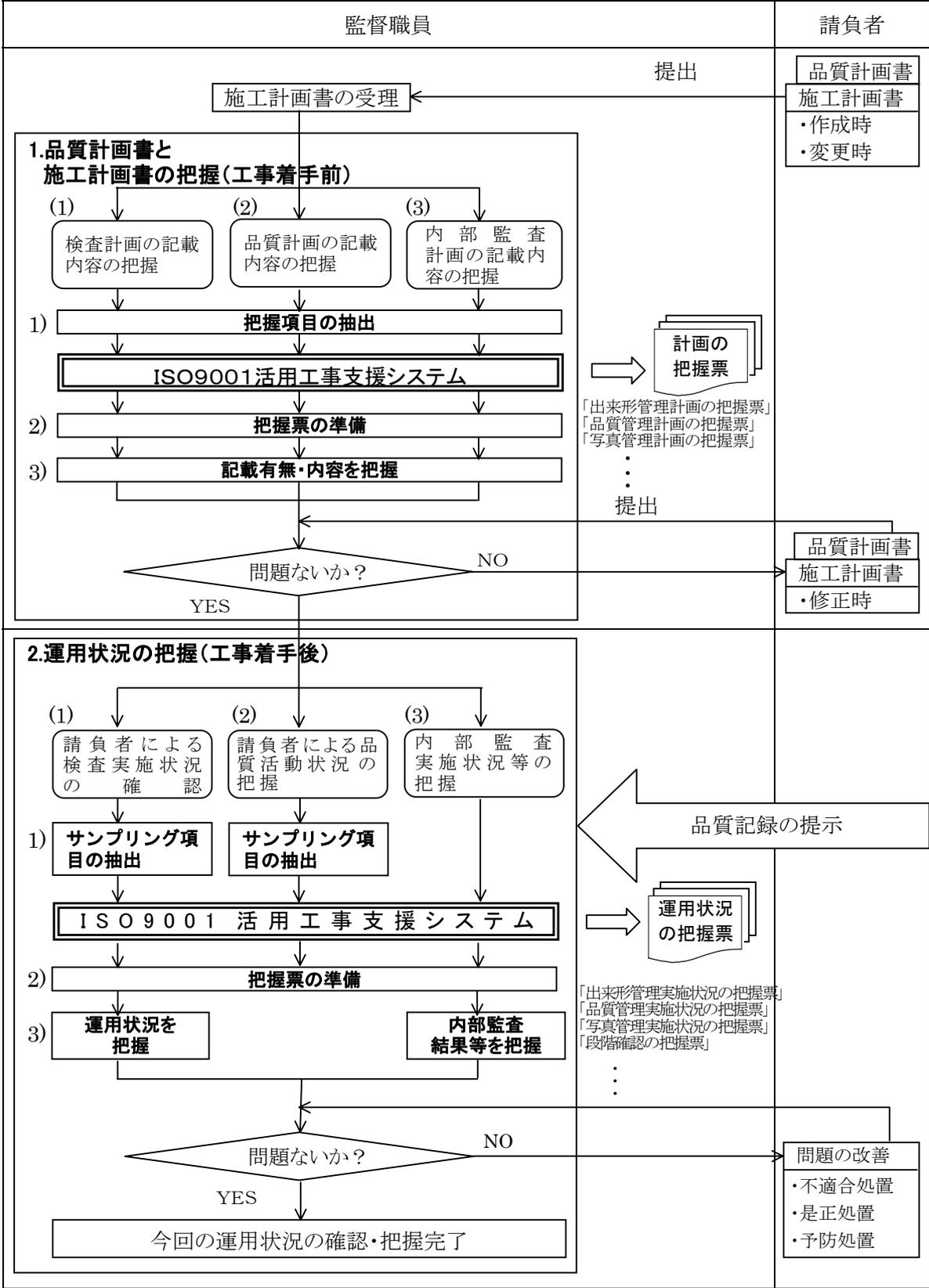
システムを終了するときは、初期メニューより[閉じる]ボタンを押します。



確認画面が表示されますので、[はい]を選択すると終了します。

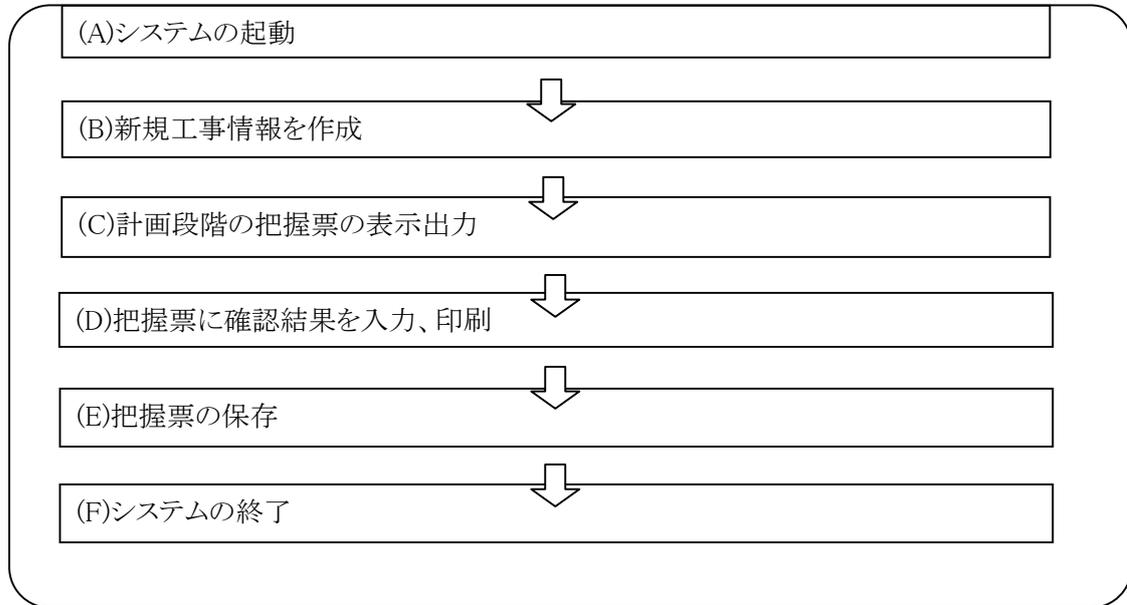


2.4 システムを利用した業務の流れ

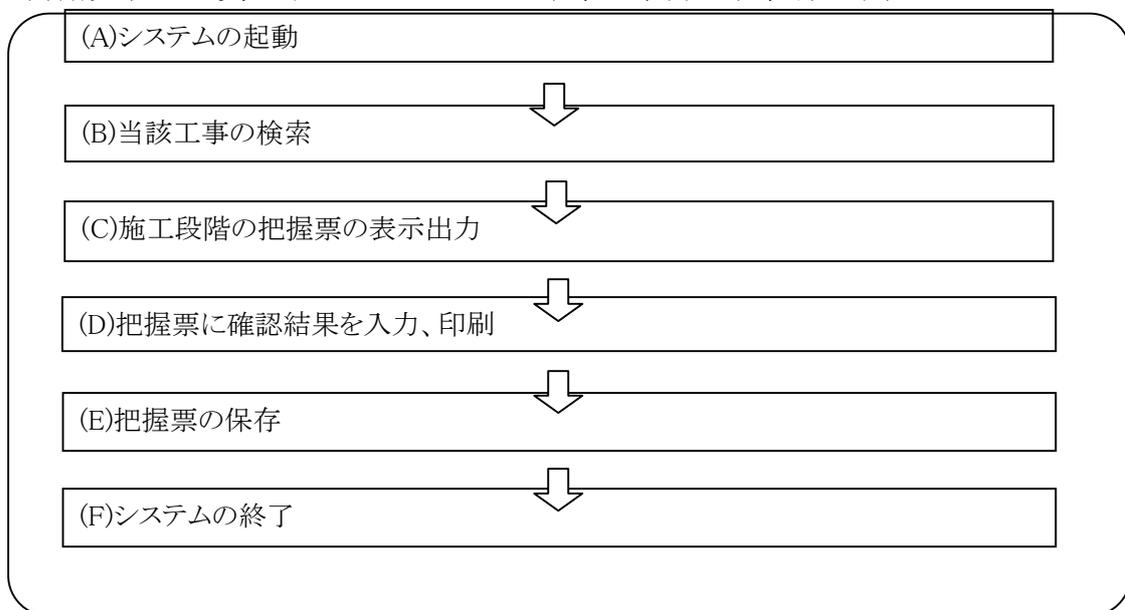


2.5 処理フロー

(1)請負者の品質マネジメントシステムの把握に関する把握票出力 (工事着手前)



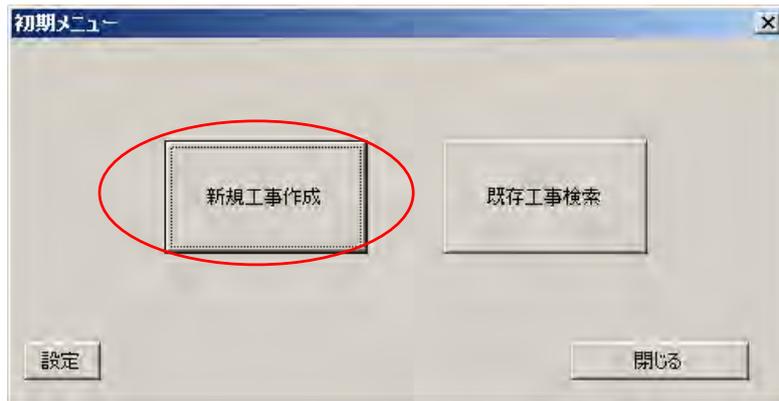
(2)請負者の品質マネジメントシステムの把握に関する把握票の出力 (工事着手後)



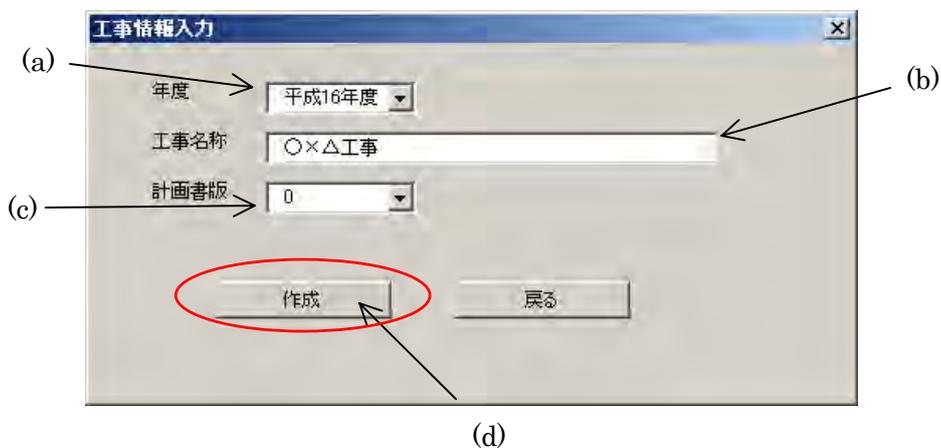
2.6 計画の把握に関する把握票の作成

(1)新規工事情報の作成

初期メニューより[新規工事作成]ボタンを押します。



工事情報を入力します。



(a)「年度」を選択又は入力します。

(b)「工事名称」を入力します。

(c)「計画書版」:設計変更の回数(当初設計は0とする)を選択します。

(d)[作成]ボタンを押します。

※既に存在する工事情報を設定した場合、作成エラーとなります。

把握票管理画面が表示されます。

工事情報の新規作成時に以下の把握票が自動的に生成されます。

◆工事着手前(計画の把握)

- 表紙
- トレーサビリティ管理
- 監視機器及び測定機器の管理
- 内部監査計画
- 不適合管理及び是正処置

◆工事着手後(運用状況の把握)

- 表紙
- トレーサビリティ管理
- 監視機器及び測定機器の管理
- 内部監査結果
- 不適合管理及び是正処置

(2) 工事着手前における新規把握票の作成

(a)「工事着手前」を選択し、把握票作成種別を選択します。

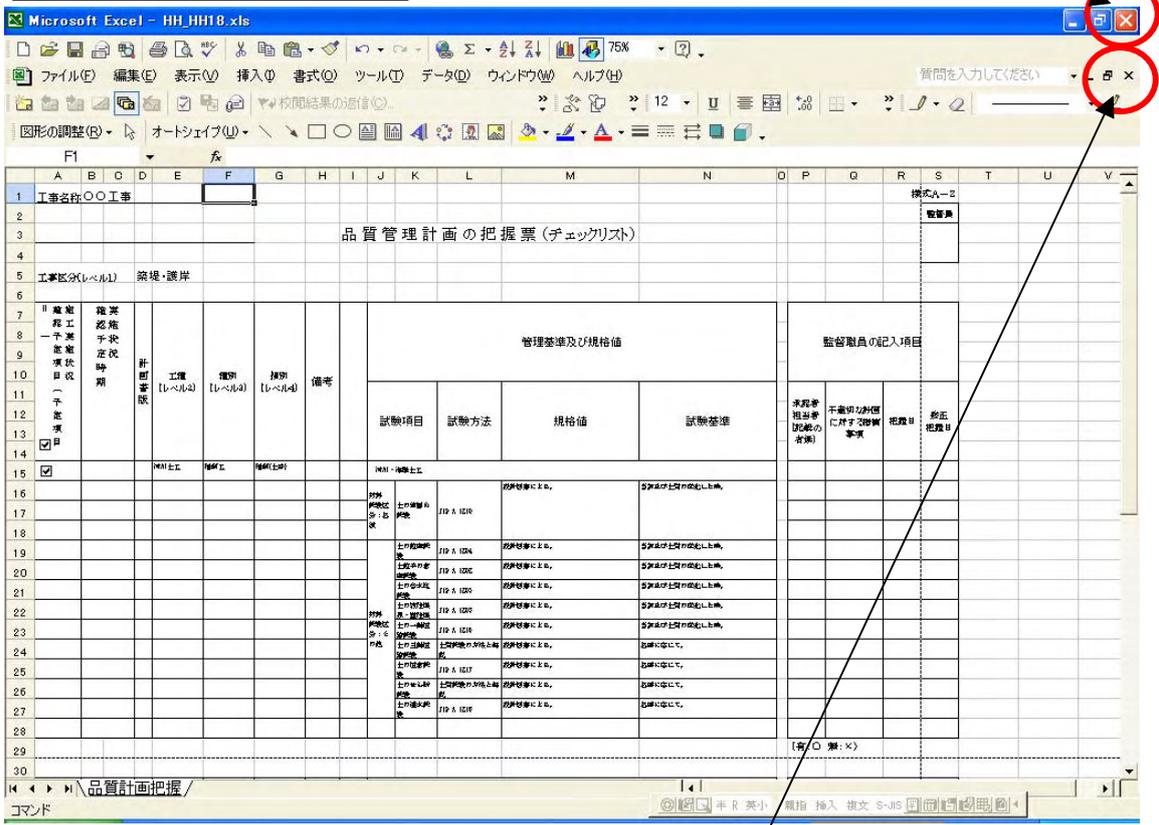
(b)大区分～細別の工事項目を選択します。

(c)[新規把握票作成]ボタンを押します。

(d)把握票が作成され EXCEL ファイルとして出力されます。(次頁へ)

この「×」をクリックしますと、EXCEL自体が終了し、システムも終了してしまいますので、ご注意ください。

把握票を表示したところ

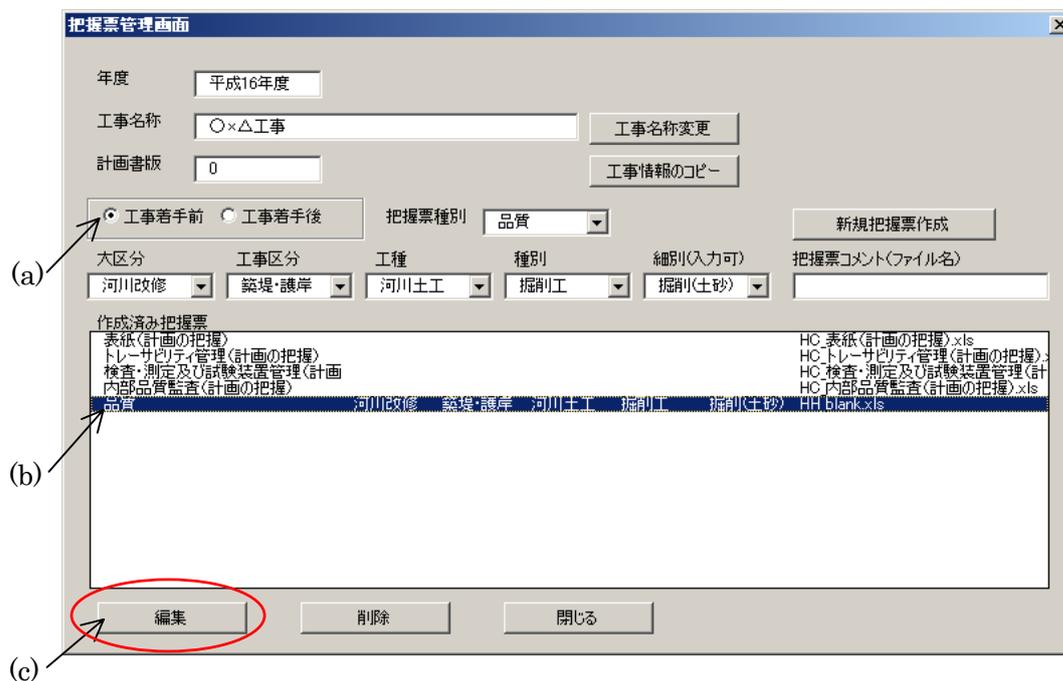


把握票シートを閉じると把握票管理画面に戻ります。

<注意>

EXCEL画面右上の×及び「ファイル(F)」メニューから「終了(X)」を選択しますとEXCEL自体を終了させ、本システムも終了してしまいます。御注意ください。

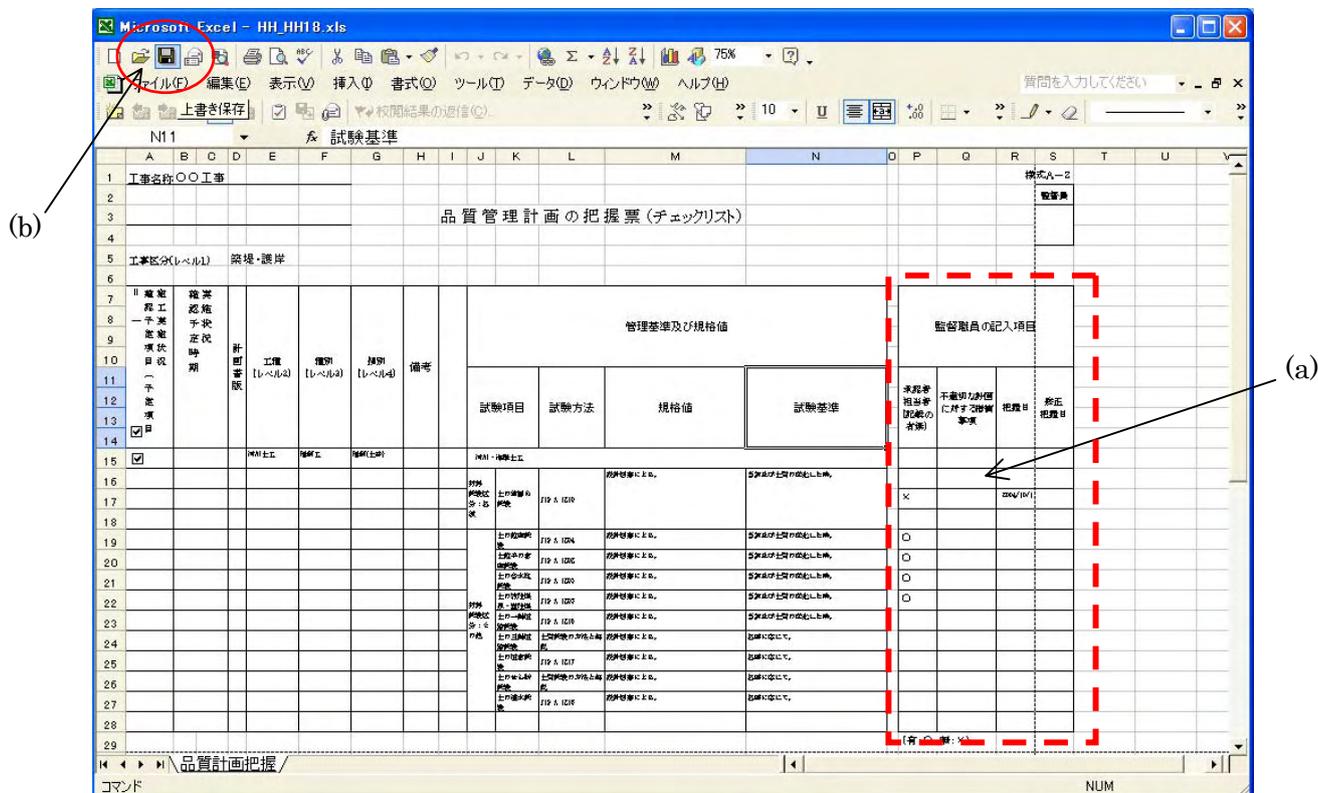
(3)把握票の編集



- (a) 把握票管理画面より「工事着手前」を選択
- (b) 「作成済み把握票」を1つ選択します。
- (c) [編集]ボタンを押します。

EXCEL ファイルとして把握票が出力されます。(次頁へ)

把握票へ把握結果を入力します。



(a)「監督職員の記入項目」に把握した結果を入力します。

(b)入力した値は EXCEL のファイル保存機能で保存できます。EXCEL のメニューから、

[ファイル]－[上書き保存]

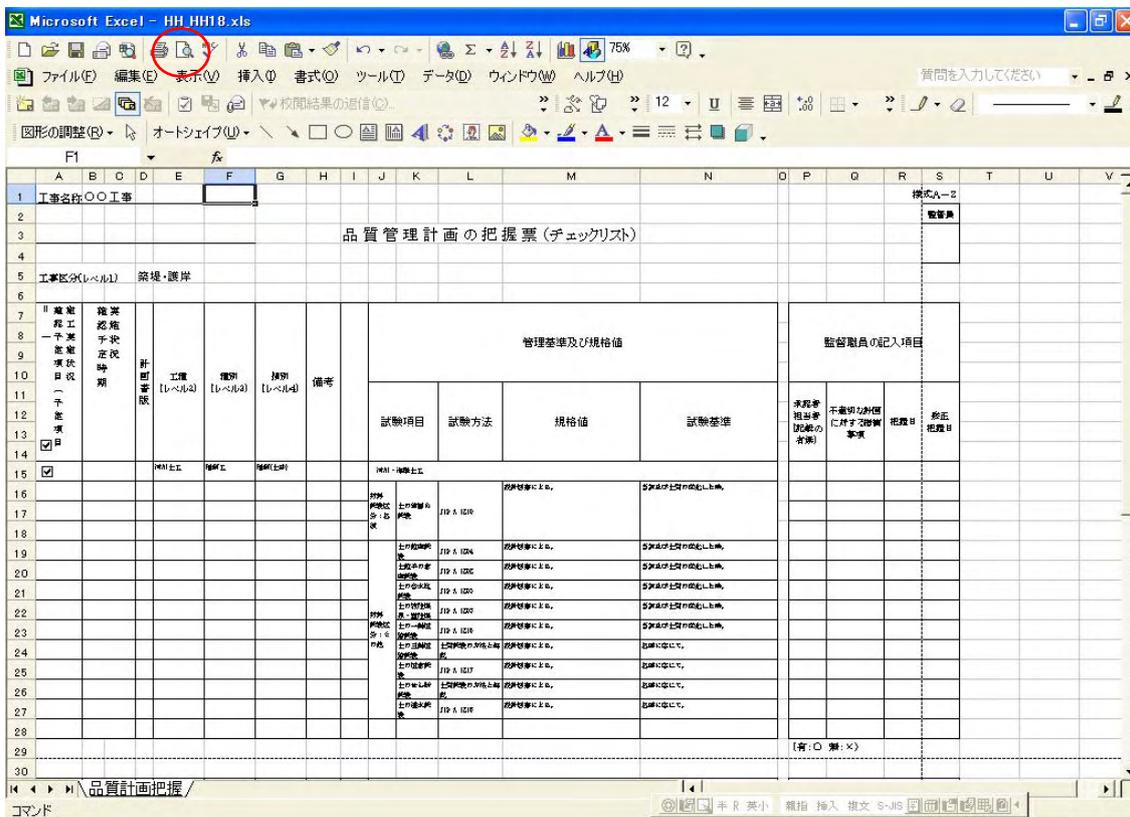
又は、

ツールバーの  をクリックしてください。

<注意>

把握票の保存先は変更できません。[名前を付けて保存]を実施した場合は本システムの管理対象外となります。

(4)把握票の印刷



把握票は EXCEL の印刷機能より印刷できます。EXCEL のメニューから
 [ファイル]－[印刷プレビュー]
 又は、
 ツールバーの  をクリックしてください。
 印刷プレビューが表示されます。(次頁へ)

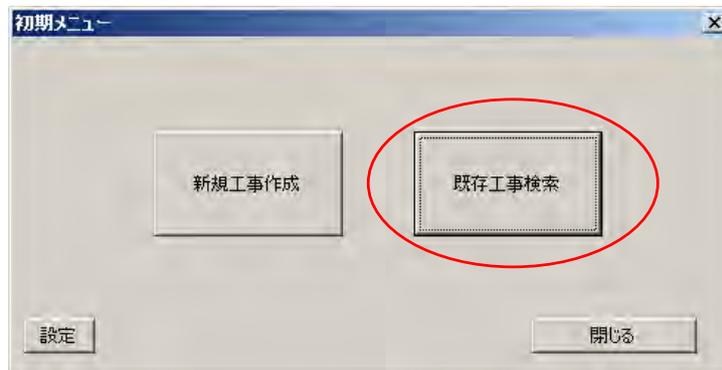


(c) 表示内容を確認後[印刷]ボタンで印刷します。

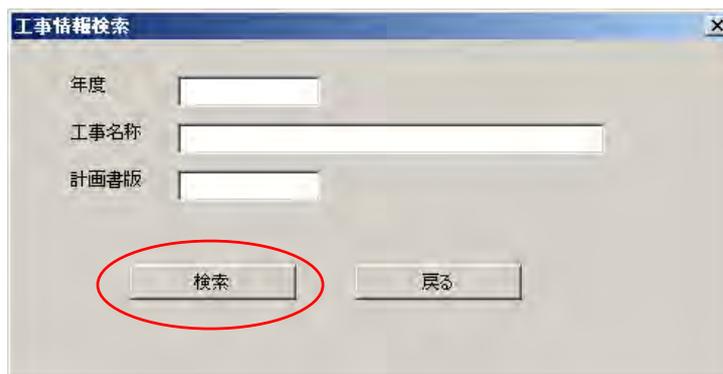
2.7 運用状況の把握に関する把握票の作成

(1) 既存工事情報の検索

初期メニューより[既存工事検索]ボタンを押します。



「年度」「工事名称」「計画書版」の検索条件を入力します。



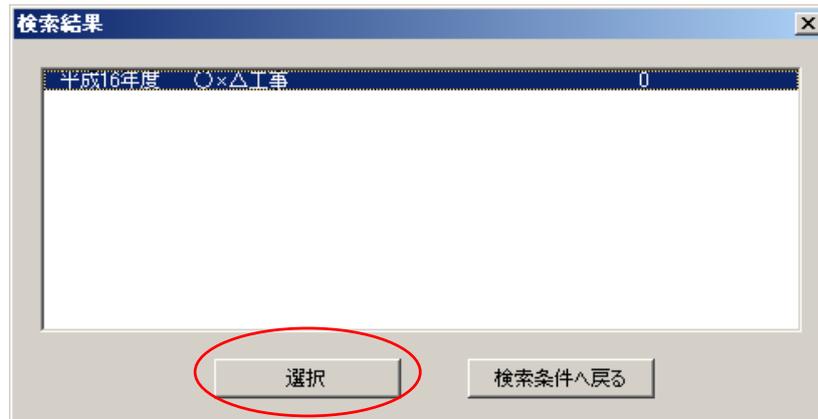
※検索条件を指定しない場合は全ての工事情報が抽出されます。

[検索]ボタンを押します。

検索結果画面が表示されます。

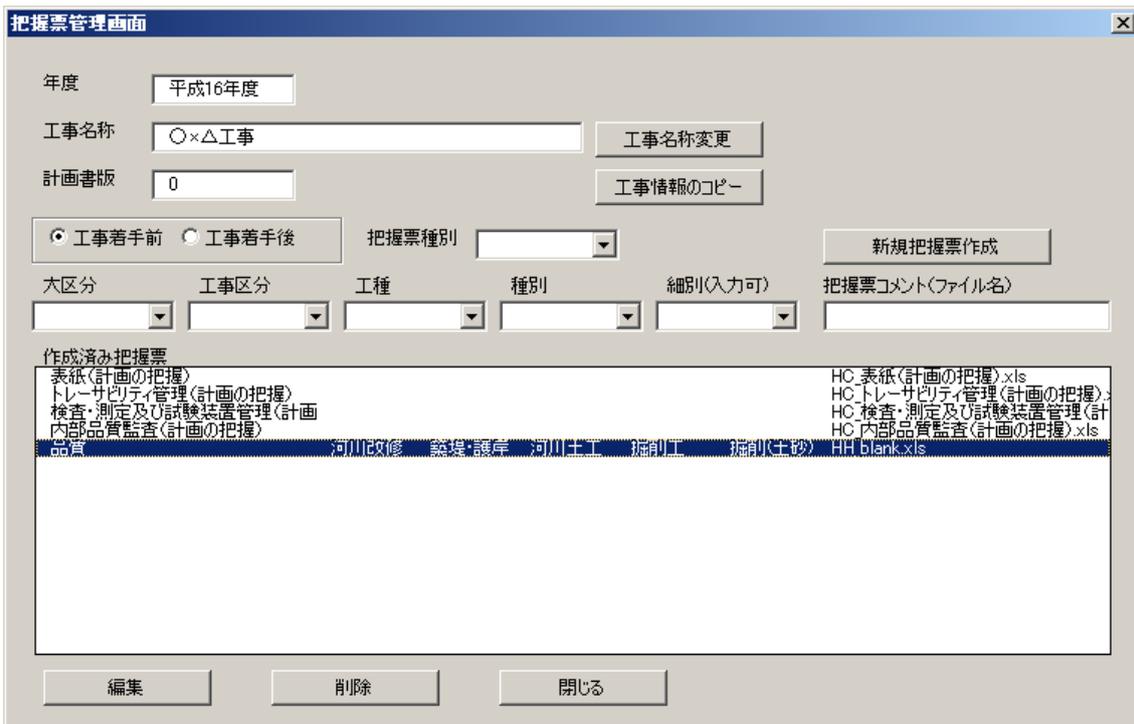


検索結果画面より当該工事を選択します。



[選択]ボタンを押します。

把握票管理画面が表示されます。



(2) 工事着手後における新規把握票の作成

把握票管理画面

年度

工事名称

計画書版

工事着手前 工事着手後

把握票種別

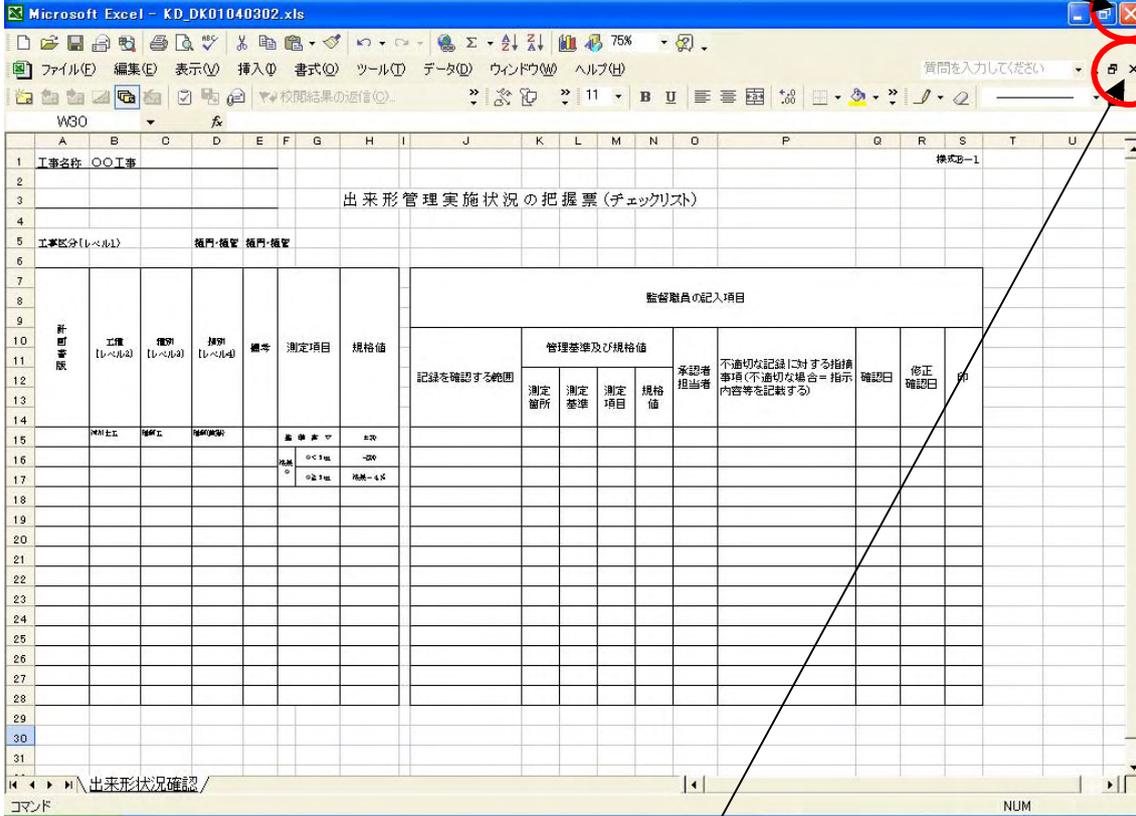
大区分 工事区分 工種 種別 細別(入力可) 把握票コメント(ファイル名)

作成済み把握票	
KC 表紙(実施状況の把握)	KC 表紙(実施状況の把握).xls
KC トレーサビリティ管理(実施状況の把握)	KC トレーサビリティ管理(実施状況の把握)
KC 検査・測定及び試験装置管理(実施)	KC 検査・測定及び試験装置管理(実施)
KC 内部品質監査(実施状況の把握)	KC 内部品質監査(実施状況の把握)

- (a)「**工事着手後**」を選択し、把握票種別を選択します。
- (b)大区分～細別の工事項目を選択します。
- (c)[**新規把握票作成**]ボタンを押します。
- (d)把握票が作成され EXCEL ファイルとして出力されます。(次頁へ)

この「×」をクリックしますと、EXCEL自体が終了し、システムも終了してしまいますので、ご注意ください。

把握票を表示したところ



把握票シートを閉じると把握票管理画面に戻ります。

<注意>

EXCEL画面右上の×及び「ファイル(F)」メニューから「終了(X)」を選択するとEXCEL自体を終了させ、本システムも終了してしまいます。御注意ください。

(3)把握票の編集

把握票管理画面

年度

工事名称

計画書版

工事着手前 工事着手後

把握票種別

大区分	工事区分	工種	種別	細別(入力可)	把握票コメント(ファイル名)	
河川改修	築堤・護岸	河川土工	掘削工	掘削(土砂)		
作成済み把握票						
表紙(実施状況の把握)					KC表紙(実施状況の把握).xls	
トレーサビリティ管理(実施状況の把握)					KCトレーサビリティ管理(実施状況の把握)	
検査・測定及び試験装置管理(実施)					KC検査・測定及び試験装置管理(実施)	
内部品質監査(実施状況の把握)					KC内部品質監査(実施状況の把握)	
掘削工	河川改修	築堤・護岸	河川土工	掘削工	掘削(土砂)	KD blank.xls

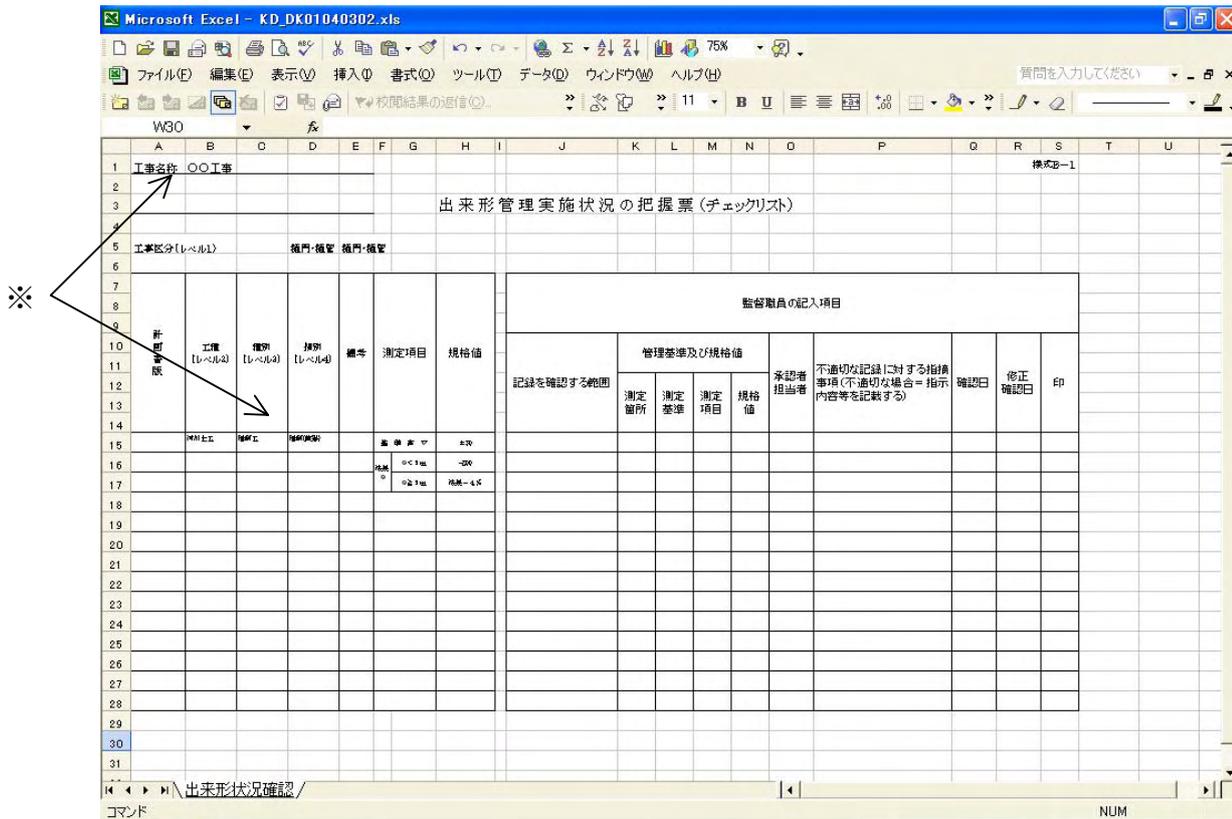
(a) (b) (c)

(a)把握票管理画面より「工事着手後」を選択します。

(b)「作成済み把握票」を1つ選択します。

(c)[編集]ボタンを押します。

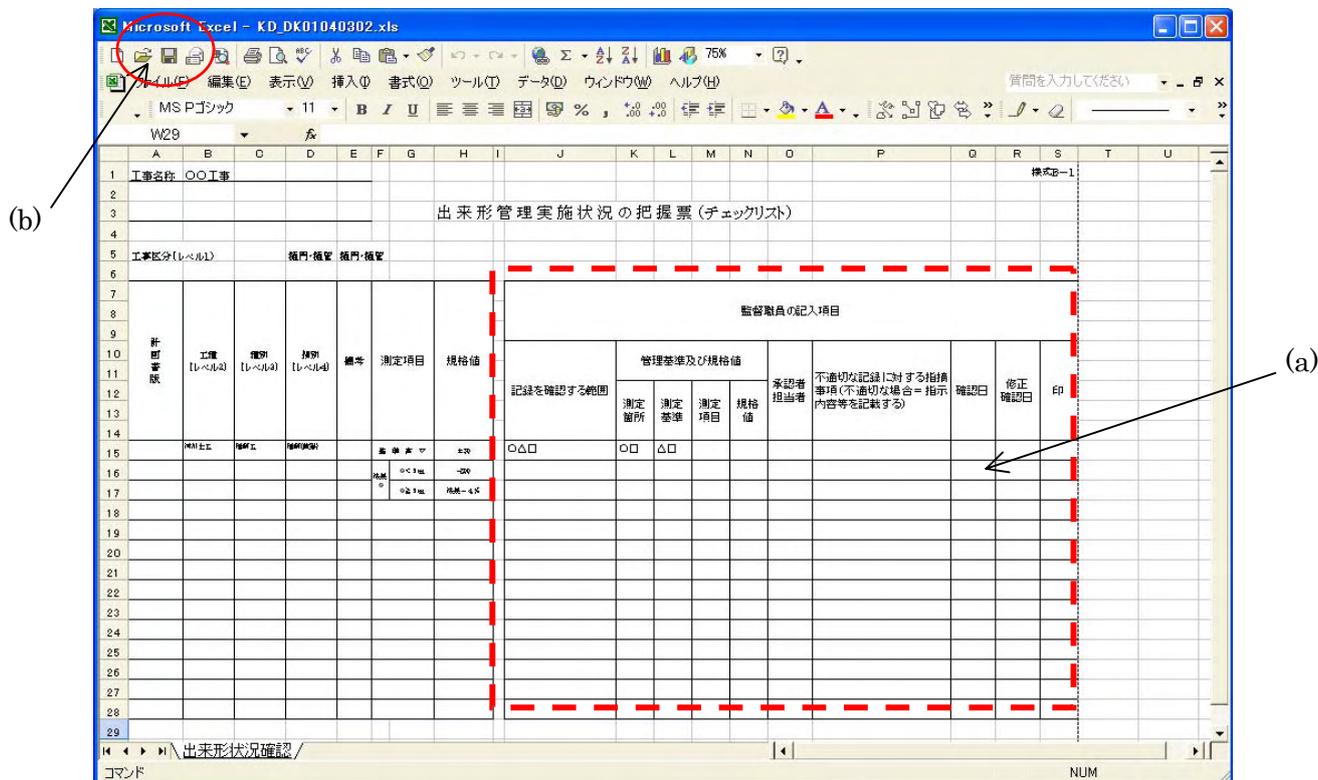
EXCEL ファイルとして把握票が出力されます。(次頁へ)



EXCEL ファイルとして任意の編集及び保存が可能です。

※工事名称及び[把握票管理画面]で設定した工事項目を把握票に出力します。

把握票へ把握結果を入力します。



(a)「監督職員の記入項目」に値を入力します。

(b)入力した値は EXCEL のファイル保存機能で保存できます。EXCEL のメニューから、
 [ファイル]－[上書き保存]
 又は、
 ツールバーの  をクリックしてください。

<注意>

把握票の保存先は変更できません。[名前を付けて保存]を実施した場合は本システムの管理対象外となります。

2.8 段階確認代替時の把握票の作成(請負者の実施状況の把握)

段階確認代替時は、同一の工事項目について段階を変えて実施状況を把握します。このような場合は、把握票管理画面で工事項目の選択後、**把握票コメント**を入力し段階の違いを識別できるようにします。

把握票管理画面

初回作成画面

年度: 平成16年度

工事名称: O x Δ 工事

計画書版: 0

把握票種別: 段階確認

把握票コメント(ファイル名): 初回

作成済み把握票

表紙(実施状況の把握)	KC_表紙(実施状況の把握).xls
トレーサビリティ管理(実施状況の把握)	KC_トレーサビリティ管理(実施状況の把握)
検査・測定及び試験装置管理(実施)	KC_検査・測定及び試験装置管理(実施)
内部品質監査(実施状況の把握)	KC_内部品質監査(実施状況の把握)

編集 削除 閉じる

把握票管理画面

2回目作成画面

年度: 平成16年度

工事名称: O x Δ 工事

計画書版: 0

把握票種別: 段階確認

把握票コメント(ファイル名): 2回目

作成済み把握票

表紙(実施状況の把握)	KC_表紙(実施状況の把握).xls
トレーサビリティ管理(実施状況の把握)	KC_トレーサビリティ管理(実施状況の把握)
検査・測定及び試験装置管理(実施)	KC_検査・測定及び試験装置管理(実施)
内部品質監査(実施状況の把握)	KC_内部品質監査(実施状況の把握)
段階確認(代替時)	河川改修 築堤護岸 河川土工 掘削工 掘削(土砂) KC_初回.xls

初回作成済み

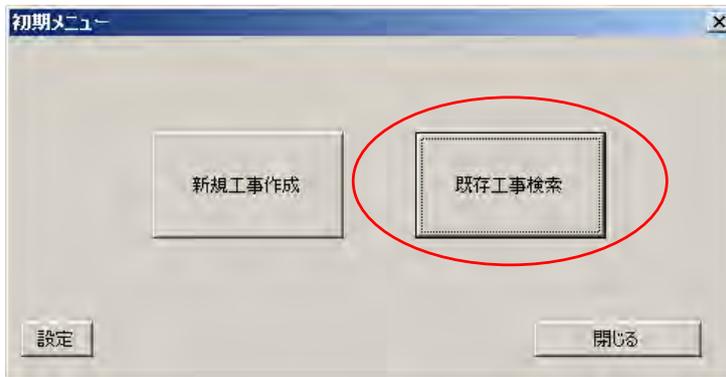
編集 削除 閉じる

※把握票コメントはファイル名に付加され保存されます。

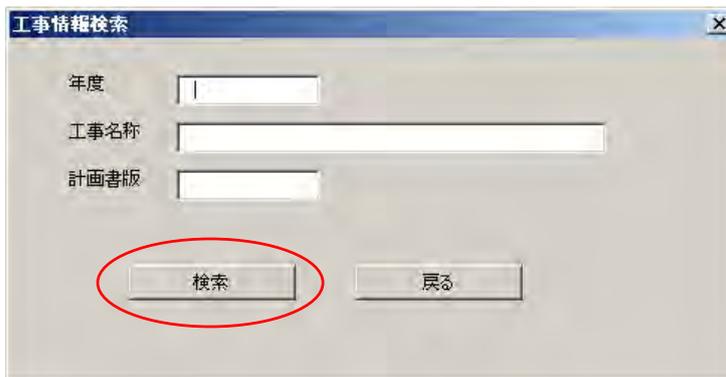
2.9 設計変更時の把握票の作成

(1) 既存工事情報の検索

初期メニューより[既存工事検索]ボタンを押します。



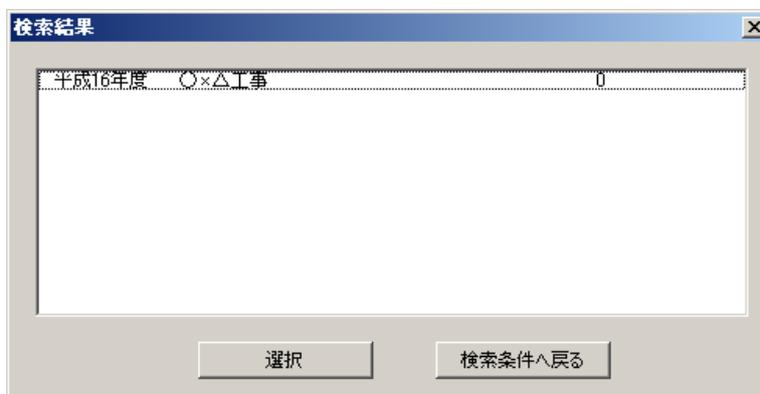
「年度」「工事名称」「計画書版」の検索条件を入力します。



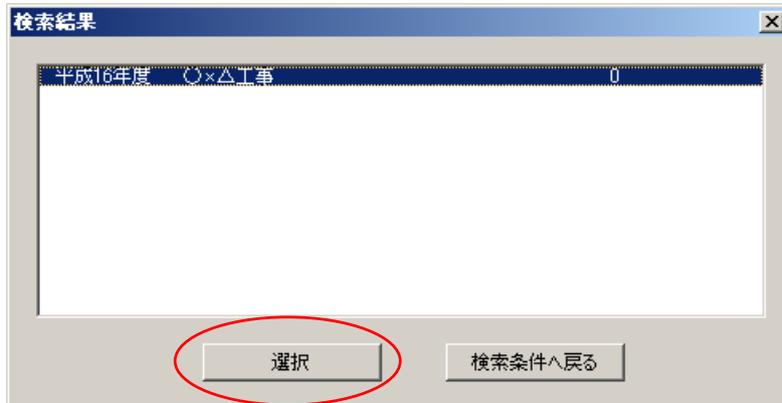
※検索条件を指定しない場合は全ての工事情報が抽出されます。

[検索]ボタンを押します。

検索結果画面が表示されます。

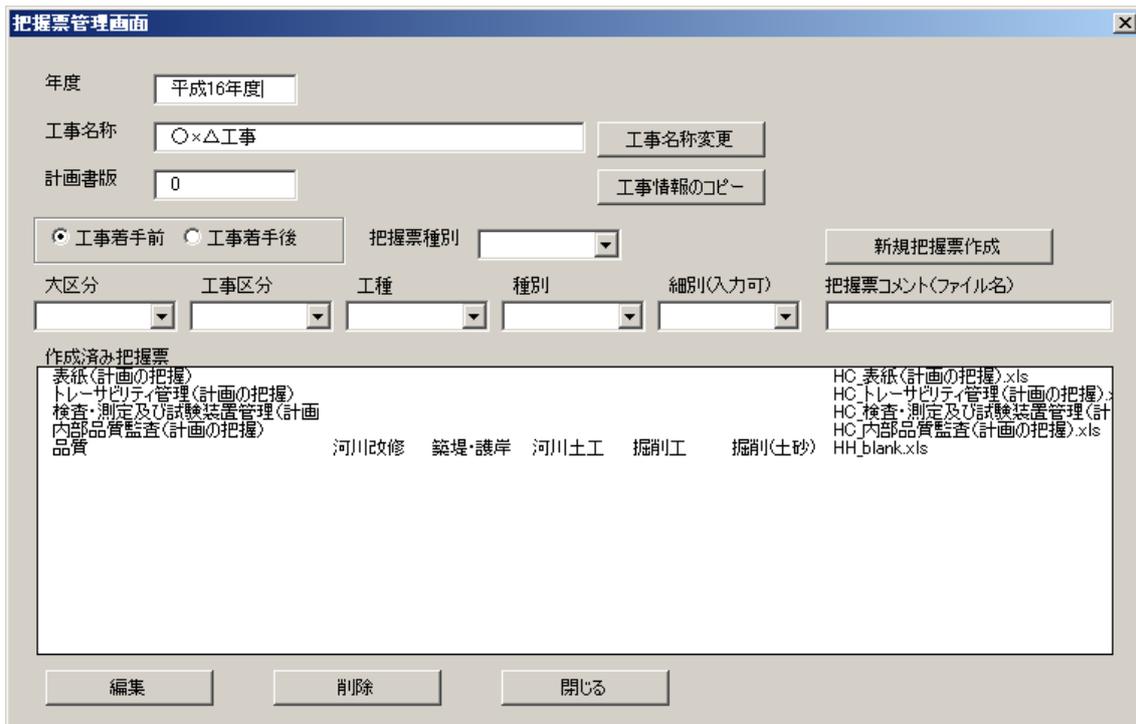


検索結果画面より当該工事を選択します。



[選択]ボタンを押します。

把握票管理画面が表示されます。



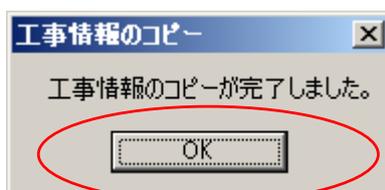
(2) 計画書版の更新

現工事情報をもとに新しい計画書版の工事情報を作成します。

(a) (b)

(a)「計画書版」を変更(入力)します。

(b)[工事情報のコピー]ボタンを押します。



工事情報のコピーの完了を伝えるメッセージが表示されます。[OK]ボタンを押してください。1つ前の計画書版で作成された把握票がすべてコピーされます。設計変更時は1つ前の計画書版で作成した把握票で変更された把握票を削除し、新たに把握票を作成します。

2. 10 その他の機能

(1) 工事名称変更

把握票管理画面

年度

工事名称 **工事名称変更**

計画書版

工事着手前 工事着手後 把握票種別

大区分 工事区分 工種 種別 細別(入力可) 把握票コメント(ファイル名)

作成済み把握票

表紙(計画の把握)	HC 表紙(計画の把握).xls
トレーサビリティ管理(計画の把握)	HC トレーサビリティ管理(計画の把握).xls
検査・測定及び試験装置管理(計画)	HC 検査・測定及び試験装置管理(計画)
内部品質監査(計画の把握)	HC 内部品質監査(計画の把握).xls
品質	HH_blank.xls

河川改修 築堤・護岸 河川土工 掘削工 掘削(土砂)

(a) 把握票管理画面で工事名称を変更(入力)します。

(b) [工事名称変更] ボタンを押すと、工事名称が変更されます。

(2)把握票削除

大区分	工事区分	工種	種別	細別(入力可)	把握票コメント(ファイル名)
作成済み把握票					
表紙(計画の把握)					HC 表紙(計画の把握).xls
トレーサビリティ管理(計画の把握)					HC トレーサビリティ管理(計画の把握).xls
検査・測定及び試験装置管理(計画)					HC 検査・測定及び試験装置管理(計画)
内部品質監査(計画の把握)					HC 内部品質監査(計画の把握).xls
品目	河川改修	築堤・護岸	河川土工	掘削工	掘削(土砂) HH blank.xls

把握票管理画面の「作成済み把握票」より把握票を選択します。

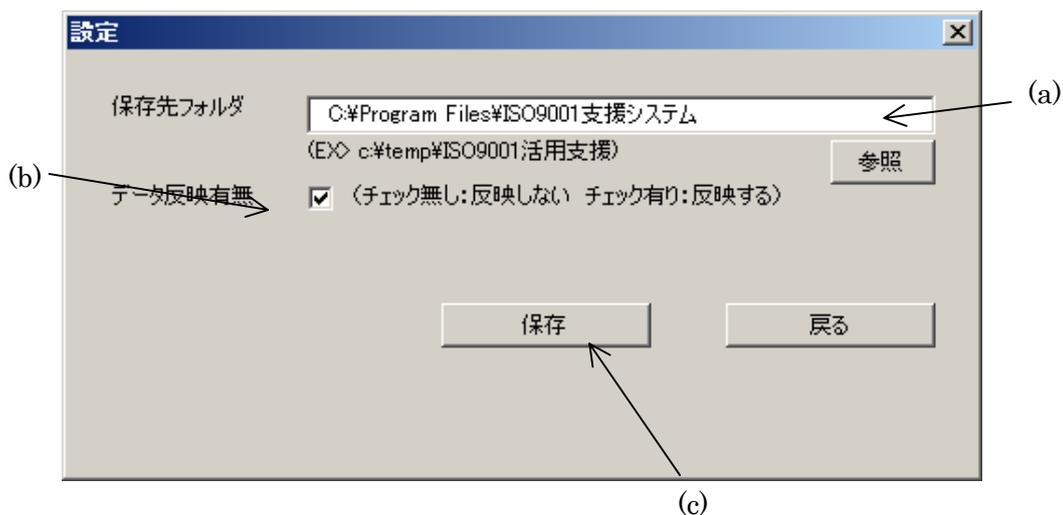
[削除]ボタンを押すと、把握票が削除されます。

(3)環境設定

初期メニューより[設定]ボタンを押します。



設定画面が表示されます。



- (a)データ保存先フォルダを指定します。(デフォルトではシステムのインストールディレクトリが設定されています。)
- (b)工事名称、工事項目の把握表への自動反映を切り替えます。(デフォルトではチェックが入った状態になっています。)
- ※「データ反映有無」にチェックを入れた場合、設定した工事名称及び[把握票管理画面]で設定した工事項目を把握票に出力します。
- (c)[保存]ボタンを押すと、変更した設定が保存されます。

把握票記入例①-1(計画時表紙)

【参考例】

様式A-0(1)

ISO9001活用工事 請負者の品質マネジメントシステム計画把握票(チェックリスト)

主任監督員	監督員	現場監督員	監督補助員
印	印	印	印

工 事 名 : 平成16年度 ○○工事

請 負 者 名 : ○○建設株式会社

対 応 者 名 : ○○ ○○(現場代理人)

○○ ○○(監理技術者)

工 種	○○工
場 所	○○県 ○○市

計画段階のQMSの計画を把握するためのチェックリストの全体をまとめた票

工事着手前における、施工品質計画書による把握

区 分	出来形管理計画	品質管理計画	写真管理計画	検査計画及び確認・立会計画	各監視・測定(検査)の担当者及び承認者、資格	内部監査計画
実 施 者	印	印	印	印	印	印
実 施 日	H16.8.1	H16.8.1	H16.8.1	H16.8.1	H16.8.1	H16.8.1
備 考						

様式A-0(2)

ISO9001活用工事 請負者の品質マネジメントシステム計画把握票(チェックリスト)

工 事 名 : 平成16年度 ○○工事

区 分	監視機器及び測定 機器管理計画	トレーサビリティ 管理計画	不適合管理 是正処置計画			
実 施 者	印	印	印			
実 施 日	H16.8.1	H16.8.1	H16.8.1			
備 考						

ISO9001活用工事 請負者の品質マネジメントシステム運用状況把握票(チェックリスト)

主任監督員	監督員	現場監督員	監督補助員
印	印	印	印

工 事 名 : 平成16年度 ○○工事

請 負 者 名 : ○○建設株式会社

対 応 者 名 : ○○ ○○(現場代理人)

○○ ○○(監理技術者)

工 種	○○工
場 所	○○県 ○○市

実施段階のQMS運用状況を把握するためのチェックリストの全体をまとめた票

実施記録による把握

NO	出来形管理実施状況		品質管理実施状況		写真管理実施状況		トレーサビリティ管理の運用状況		監視機器及び測定機器管理の運用状況		内部監査実施状況	
	実施者	実施日	実施者	実施日	実施者	実施日	実施者	実施日	実施者	実施日	実施者	実施日
1	印	H16.10.1	印	H16.10.1	印	H16.10.1	印	H16.10.1	印	H16.10.1	印	H16.10.1
2	印	H16.12.1	印	H16.12.1	印	H16.12.1	印	H16.12.1	印	H16.12.1	印	H16.12.1
3	印	H17.2.1	印	H17.2.1	印	H17.2.1	印	H17.2.1	印	H17.2.1	印	H17.2.1
4												
5												
6												

ISO9001活用工事 請負者の品質マネジメントシステム運用状況把握票(チェックリスト)

工 事 名 : 平成16年度 ○○工事

NO	不適合管理、是正処置の運用状況		段階確認実施状況		請負者による検査実施状況							
	実施者	実施日	実施者	実施日	実施者	実施日						
	(印)	H16.10.1	—	—	—	—						
	(印)	H16.12.1	—	—	—	—						
	(印)	H17.2.1	—	—	—	—						

段階確認通知書で書類のやりとりをしている場合はチェック票の記入は不要

仕様書にない特殊な工種用にチェック票を作成可能としている。

把握票記入例③(出来形管理)

【参考例】

工事名称 平成16年度 ○○工事

様式B-1

出来形管理実施状況の把握票(チェックリスト)

工事区分(レベル1)

トンネル(トンネル(NATM))

計画書版	工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	備考	測定項目	規格値	監督職員の記入項目									
							管理基準及び規格値				承認者 担当者	不適切な記録に対する指 摘事項(不適切な場合=指 示内容等を記載する)	確認日	修正 確認日	印	
							記録を確認する範囲	測定 箇所	測定 基準	測定 項目						規格 値
	支保工	吹付工	吹付	C II	吹付厚さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1/3以上を確保するものとする。	NO36+6.1	○	×	○	○	○	測定間隔が41.2mである40m毎の測点を1点とること	H16 10.1	H17 10.2	印
							NO38+2.7	×	×	×	×	×	測定されていない測定するよう指示	H17 10.1	H17 10.3	印
							NO42+7.3	○	○	○	○	○	—	H17 10.1		印

不適切な記録があった場合は、指示内容を記載する。

請負者の記録を確認した日付を書き込む。

不適切な事項があった場合、それが適切になったと確認した日付を書き込む。

確認時に問題なかった場合は修正確認した時に監督職員の印を押す。

請負者の記録を確認する範囲、測点を記載する。

1断面7箇所測定などの測定箇所は適切かを確認し問題がなければ○、問題がある場合は×を書き込む。

40m毎に測定などの測定基準に問題がなければ○、問題がある場合は×を書き込む。

長さ、高さ、幅などの測定項目に問題がなければ○、問題がある場合は×を書き込む。

計画通りの承認者、担当者になっているか、問題がなければ○、問題がある場合は×
±5cmなどの規格値に問題がなければ○、問題がある場合は×を書き込む。

把握票記入例④(品質管理)

【参考例】

工事名称 平成16年度 ○○工事

様式B-2

品質管理実施状況の把握票(チェックリスト)

試験方法～承認者担当者の項目で、不適切な項目があった場合、その内容を書き込む。

工事区分(レベル1)

トンネル(トンネル(NATM))

計画どおりの承認者、担当者になっているか、**監督職員が施工中に請負者の品質管理状況を問題なければ○、問題ある場合は×を書き込む。**

計画書版	工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	備考	試験項目	規格値	監督職員の記入項目														
							記録を確認する範囲	管理基準及び規格値				承認者担当者	不適切な記録に対する指摘事項(不適切な場合は指示内容等を記載する)	確認日	修正確認日	印					
								試験方法	試験基準	試験項目	規格値										
支保工	吹付工	吹付			吹付けコンクリート (NATM)																
					材料試験区分:必須 アルカリ骨材反応対策	「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平成14年7月31日付け国官技第112号、国港環第35号、国空環第78号)」	H16.8月実施分	○	○	○	×	○	試験月日が1年以上前新たに提出指示	H16.10.1	H16.10.5	(印)					
					骨材のふるい分け試験	設計図書による。	H16.8月実施分	○	○	○	○	×	承認者不一致	H16.10.1	H16.10.5	(印)					
					骨材の単位容積質量試験	設計図書による。	H16.8月実施分	○	○	○	○	-	-	H16.10.1		(印)					
					骨材の密度及び吸水率試験	総乾密度:2.5以上 骨材の吸水率:3.5%以下 粗骨材の吸水率:3.0%以下	H16.8月実施分	○	○	○	○	-	-	H16.10.1		(印)					
					材料試験区分:その他 骨材の微粒分	粗骨材:1.0%以下 細骨材:コンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合3.0%以下、その他の場合5.0%以下 (砕砂およびスラグ細骨材を用いた場合はコンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合5.0%以下その他の場合7.0%以下)	H16.8月実施分	○	○	○	○	○	-	H16.10.1		(印)					
					砂の有機不純物試験	標準色より濃いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる	H16.8月実施分	○	○	○	○	○	-	H16.10.1		(印)					
					モルタルの圧縮強度による砂の試験	圧縮強度の90%以上	H16.8月実施分	○	○	○	○	○	-	H16.10.1		(印)					
					骨材中の粘土塊量の試験	細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下	H16.8月実施分	○	○	○	○	○	-	H16.10.1		(印)					

請負者の記録を書き込む。確認した

不適切な事項があった場合、それが適切になったと確認

パソコンのシステムから自動的に出力され
計画の把握の場合は、施工前、何月実施分などと記録を確認する範囲を記入

「請負者が設定した規格値」どおり施工しているか確認し、問題なければ○、問題ある場合は×を書き込む。

試験項目のモレがないかを確認し、問題なければ○、問題ある場合は×を書き込む。

基準どおり試験しているか確認し、問題なければ○、問題ある場合は×を書き込む。確認時に問題なければ確認した監督職員の印を押す。問題あった場合は修正確認した時に印を押す。

試験方法は間違っていないかを確認し、問題なければ○、問題ある場合は×を書き込む。

把握票記入例⑤(内部監査)

【参考例】

工事名称 平成16年度 ○○工事

内部監査実施状況の把握調査票(チェックリスト)

内部監査結果で把握した記録名称を記載する。 監督職員が指摘した事項を請負者が修正したことを把握した日付を記入する。
 内部監査記録による不適切な事項を記入する。監督職員が内部監査結果を把握した日付を記入する。

監督職員の記入項目									
計画 書版	把握項目				把握記録名称	不適切な記録に 対する指摘事項	把握日	修正 把握日	把握印
	実施回数	実施時期	監査リーダー	監査リーダーの資格 基準					
0	○	H16.9.8 (1回目)	○	○	内部品質監 査 結果報告書	なし	H16.10.1	—	(印)
1	○	○	○	○	是正処置記 録	是正処置完了の月日が記載されていない	H16.10.1	H16.10.5	(印)

監査リーダーの資格条件を満たしていれば○、それ以外×を記入する。
 内部監査計画の監査リーダーであれば○、それ以外は×を記入する。
 内部監査計画日に実施した場合は、○、それ以外は、実施日を記入する。
 当該工事の内部監査計画の実施回数と同じなら○、それ以外は×を記入する。
 施工計画書(品質計画書)の改訂のバージョンNoを記入する。

把握時に問題なければ、把握した監督職員の印を押す。
 問題あった場合は、是正を確認した時に印を押す。

把握票記入例⑦(トレーサビリティ)

【参考例】

様式B-5

工事名称 平成16年度 ○○工事

トレーサビリティ管理実施状況の把握調査票(チェックリスト)

監督職員の記入項目											
計画書版	把握項目		品質確認方法	担当者	管理方法			不適切な記録に対する指摘事項	把握日	修正把握日	把握印
	品名	規格			使用場所	使用時期	把握記録名称				
	0 鉄筋	SD295AD13~D	○	○	○	○	鉄筋集計表	-	H16.10.1	-	印
	0 鋼アーチ支保工		○	○	○	○	鋼アーチ支保工集計表	担当者印もれあり→(試験写真で確認)	H16.10.1	H16.10.8	印

規格がある場合は記入する。
 トレーサビリティ管理を行う品名を記入する。
 施工計画書(品質計画書)の改訂のバージョンNoを記入する。

使用時期が記録からわかるかを把握し、問題なければ○、問題ある場合は×を記入する。
 使用した場所が記録からわかるかを把握し、問題なければ○、問題ある場合は×を記入する。
 施工担当者は計画通りになっているかを把握し、問題なければ○、問題ある場合は×を記入する。
 品名の受入検査は計画どおりに実施されているかを把握し、問題なければ○、問題ある場合は×を記入する。

把握するために目を通した記録の名称を記入する。
 監督職員がトレーサビリティ管理記録を把握した日付を記入する。
 監督職員が指摘した事項を請負者が修正したことを把握した日付を記入する。
 把握時に問題なければ、把握した監督職員の印を押す。
 問題あった場合は、修正確認した時に印を押す。

把握票記入例⑧(不適合管理、是正処置)

【参考例】

様式B-9

工事名称 平成16年 ○○工事

不適合管理、是正処置運用状況の確認票(チェックリスト)

監督職員の記入項目							
計画書版	把握項目	確認書類名称	記載の有無	指摘事項	確認日	修正確認日	確認印
1	不適合が発生した場合、計画した不適合製品管理手順に基づいて、処置がなされているか	品質計画書 不適合品処理報告書	○	二次製品の厚み不足という不適合が発生手順通りの処置がなされている。	H16 10.1		印
1	不適合の原因究明が適切であるか	不適合品処理報告書	○	適切	H16 10.1		印
1	不適合処置、是正・予防処置の内容は、今後不適合製品の発生を防止する適切なものか	不適合品処理報告書	×	今後の不適合を発生する処置にはなっていない。工場での出荷時の検査の徹底の問題が残るので、是正されたい。	H16 10.1	H17 10.5	印
	記載された内容、把握項目に記載されてことが満足されていれば○、不十分であれば×		不適合処理報告などを確認して、指摘事項があれば、記入する。		監督職員が不適合の管理記録を把握した日付を記入する。		
					監督職員が指摘した事項を請負者が修正したことを把握した日付を記入する。		
					把握時に問題なければ、把握した監督職員の印を押す。 問題あった場合は、修正確認した時に印を押す。		

3. サポート連絡先

本システムに障害が発生した場合やシステムの内容についての連絡は下記までお願いします。

財団法人 先端建設技術センター

先端建設技術研究所 研究第一部、研究第三部 担当者

郵便番号 112-0012

東京都文京区大塚 2-15-6

TEL: 050-3085-6115 03-3942-3993

FAX:03-3942-0424